

A decorative graphic on the left side of the slide, consisting of a network of light blue lines and small circles, resembling a circuit board or a neural network, set against a dark blue background.

身の回りの情報化

1、家庭での情報機器の普及

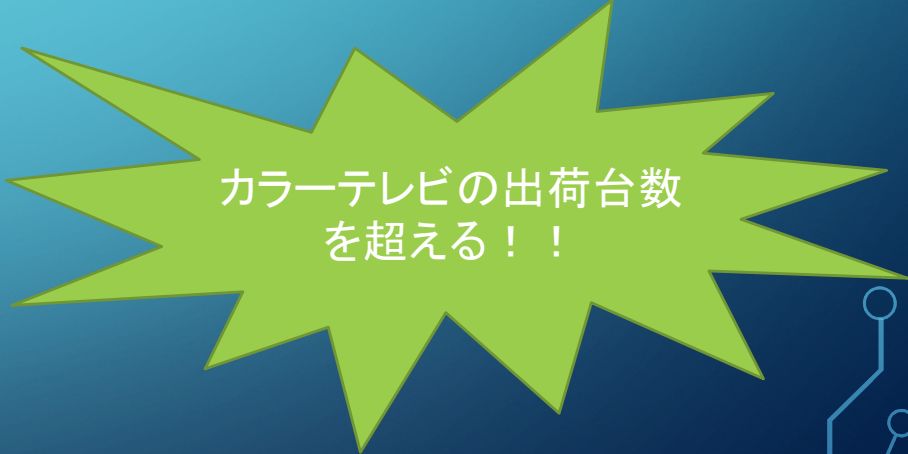
パソコン

CPUの処理速度が急速に向上。価格も安くなり、2000年には約1千万台、2兆円の国内出荷があった。

家庭での普及率は40%になり、

ワープロ普及率を超える。

家庭でのパソコン所有率・利用率が急速に上昇。



カラーテレビの出荷台数
を超える！！

携帯電話

当初は自動車電話として日本では1979年にサービスが開始。

1985年 ショルダ型

1993年 デジタルサービス

1995年 PHS(Personal Handy-phone System)サービス

1991年 iモードがヒット

2001年 Java対応のiモードが発表される

2000年には携帯電話の加入数は5000万超に。

固定式の加入電話を超えて全人口の50%になる。



デジタルカメラ

1981年にソニーが試作機マピカを発表したのが最初。

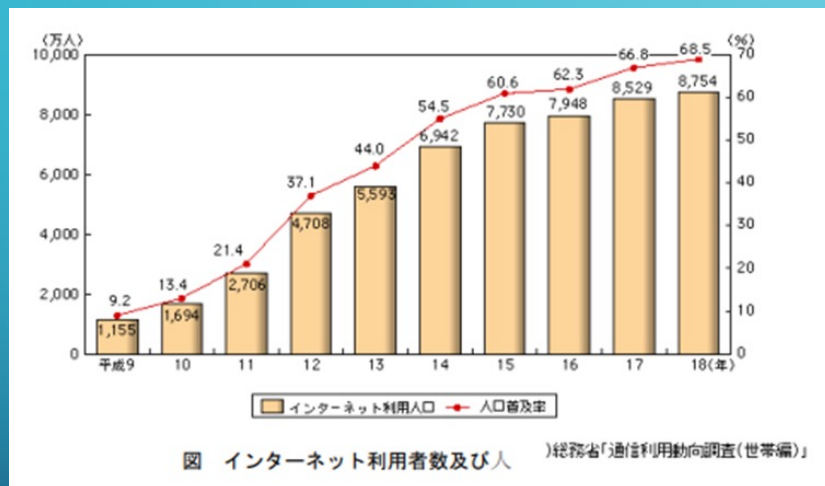
半導体メモリの低価格化や、パーソナルコンピュータの普及、画像処理ソフトの発展に応じて1997年頃から急速に普及。

多様な加工編集ができ、価格は素人用として十分な機能のもので5万円程度で入手ができるようになった。



2、インターネット

米軍用から学術用に広がり、1990年から商用に利用されるようになった。



2000年 利用者2500万人 家庭普及率は20%超
インターネットの家庭普及率が10%を超えるのにわずか5年

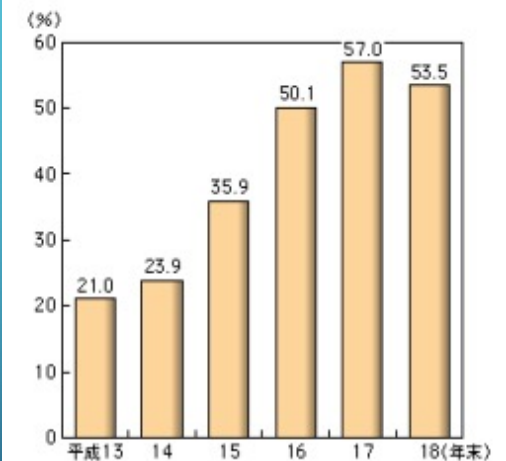
電話は76年、携帯電話は15年

職場や学校からの利用 ➡ 自宅からの利用が増大！！

使いやすくなったインターネット

(a)、携帯電話の利用

- ・NTTドコモが1999年2月にiモードを発表。
- ・携帯用電話としてではなく、電子メールやインターネットページ閲覧の機能に人気。
- ・利用時間割合が
電話:メール:ページ=4:4:2 に。



(出典)総務省「通信利用動向調査(世帯編)」

図 携帯インターネットの利用率

(b)、高速回線・常時接続

1, インターネット接続回線の常時接続サービスが普及すると.....

→電話料金を気にせず, つなぎっぱなしでインターネットを使うことができる。

2, 通信回線が高速化(ブロードバンド)すると.....

→音楽や動画などの大量データをインターネットで入手することが容易に。

要望やインターネット推進政策により, NTTは「フレッツISDN」や「フレッツASDL」を提供。

まとめ

- ・パソコンの普及が急速で、家庭での所有率・利用率が増加した。
- ・iモードが発表され、携帯電話は電話機というより携帯情報機器として用いられるようになった。
- ・従来は、職場や学校からの利用が多かったインターネットが、自宅からの利用が増大した。

インターネットが生活の中に溶け込んできた